いしかわ気候変動適応センター通信　第２１号

過去最強のエルニーニョ現象で今年の冬は暖冬？

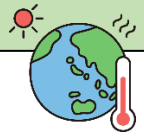
気象庁によると、今年 10 月のエルニーニョ監視海域の海面水温は基準値より 4.4℃高く、1949 年以降で最も高かった今年 9 月の値を超え、今年春から続いているエルニーニョ現象は、過去最大の強さを更新しました。今後、今年の冬の前半までに最盛期を迎えたのち、来年の春にかけて続く見込みとなっています。

このため、日本付近は寒気の影響が小さく、気象庁の３か月予報（11～1 月）では、全国的に気温は平年よりも高い予報で、暖冬となる可能性が高い状況です。

一方で、一時的に強い寒気が入り雪や厳しい寒さとなる可能性もあるため、早めに雪への対策・対応をとっておくことが大切です。

≪エルニーニョ現象とは≫

エルニーニョ現象とは、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が１年程度続く現象です。気象庁では、太平洋赤道域の指定海域で海面水温が平年より 0.5℃以上高い状態が半年以上続いた場合を「エルニーニョ現象」としています。



暖冬の影響によりカメムシも増加！？

県農林総合研究センターによると、今年５月に実施した調査では、石川県内で果樹に被害を及ぼす果樹カメムシ類が多発しており、例えば、クサギカメムシが平年の約４倍、チャバネアオカメムシが平年の約６倍となりました。また、今年６月に実施した調査では、コメの品質低下などを招く斑点米カメムシ類が 20 年前と比較して約３倍に増加していることが確認されました。

このようにカメムシが増加している背景には、地球温暖化の影響により越冬する個体が増えたことが関係していると言われています。

今年の冬も暖冬となる可能性が高く、冬を越す個体も多くなると言われているため、引き続き注意が必要です。

いしかわ環境フェアに出展しました！

10 月 31 日～11 月 1 日に開催された「いしかわ環境フェア 2026」に出展しました。

気候変動に関する取組について展示を行ったほか、ガチャガチャを回すと出てくる「夏は 40℃以上の暑い日が当たり前になったら、どうする？」など、将来起こりうる気候変動の影響に関する質問に対して自由に考えてもらい、「適応の木」をみんなで完成させる「ミライ地球ガチャ」を実施しました。



当日は多くの方々に来場いただき、親子で楽しみながら気候変動への適応について考えていただく機会となりました。

＜石川県気候変動適応センター＞
事務局：石川県生活環境部カーボンニュートラル推進課
電話：076-225-1469　FAX：076-225-1479　メール：cn2@pref.ishikawa.lg.jp
HP：https://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/tekiou/index.html